

森に緑を
住まいに木を



木の家だいきの会 通信

2014年6月発行

特定非営利活動法人 木の家だいきの会
E-Mail: office@kinoie.org
URL: http://www.kinoie.org
facebook:
http://www.facebook.com/NPO.KinoieDaisuki

■所沢事務所
〒359-1116 埼玉県所沢市東町 11-1-1704
TEL 04-2926-6045 / FAX 04-2926-5743
■東京事務所
〒160-0011 東京都新宿区若葉 1-6-1-305
TEL 03-5366-4772 / FAX 03-5366-4702

木の家だいきの会 通信では、家づくりに関する情報や、会の活動、事例などをご紹介します。

健康と住まいの温熱環境の関係 ～ヒートショック～

交通事故死者数よりも多い、ヒートショック

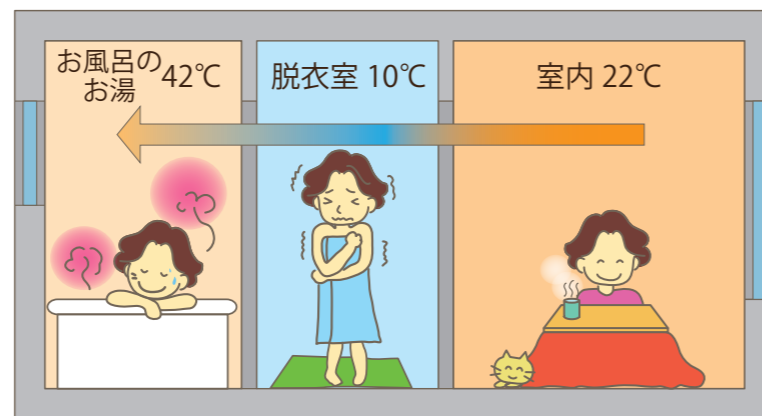
最近耳にする「ヒートショック」は、急激な温度の変化で身体がダメージを受けることです。

居間などと脱衣所や浴室、そして入浴の際の熱い湯との激しい温度差により、血圧の急上昇が大きな負担となり、心筋梗塞や脳出血、脳梗塞などによる突然死を引き起こす原因となると言われています。また、浴室内のヒートショックで亡くなる方は、交通事故死者数よりも多いという驚きの数字が発表されています。

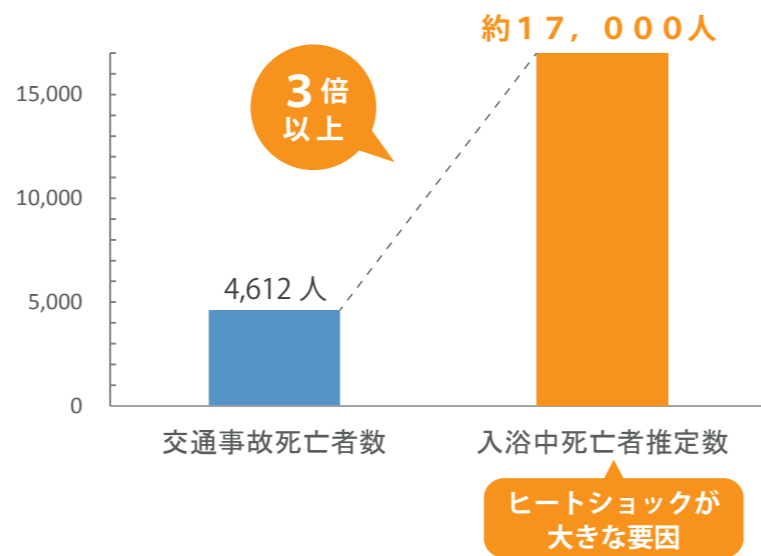
温度差の少ない住まいは、体にやさしい

このヒートショックのリスクを減らすためには、家の中の温度差を少なくすることが大切です。住まいの温熱環境の設計をしっかり行い、適切な断熱を施すことで、家全体が均一な温度環境とし、部屋間の温度差を少なくすることができます。

部屋間の温度差の少なくすることは、高齢者だけでなく全ての人の体にやさしく、心地よい住まいづくりのポイントの1つですね。



リビング・脱衣室・浴室の温度差イメージ



※出典：東京都健康長寿医療センター研究所
「高齢者の入浴中の急死に関する調査」
2011年総務省統計局
「平成23年中の交通事故死者数について」

見学会などのお知らせ

- 6月21日(土) 長期優良住宅の木の家 完成見学会「見た目シンプル、内部は工夫いっぱいの木の家」(設計：アトリエ・ヌック) 蕨市にて
- 6月23日(月)～28日(土) 建築展「結露しない、健康な家に住みたい」
- 7月26日(土) 住まう木の家見学会と3人の設計者との出会い(設計：澤野建築研究所) 所沢にて

コラム：設計者の目

今回は、設計者・勝見紀子さん(アトリエヌック)からの報告です。

敷地を間取る

— 部屋の間取り以上に重要な敷地への建物配置 —

アトリエヌック・勝見紀子



部屋の間取りを考えると、広さや形、部屋同士のつながり、日当たりや動線を考えますが、このことは建物を敷地に配置する際にも必要な視点です。

道路に面するどこに出入口を取るか、人の出入り・車の出入りはどこが好都合か、庭の位置や形など、人の生活は家の中だけで完結するものではないだけに、つながりがとても重要です。建物の輪郭がつくる敷地の余白が、家の間取りとうまく連動してこそよい住まいとなります。敷地自体の変形や高低、隣地や道路の状況、日照や通風などの環境要因など、その土地が持っている性質や制約は、変えることのできない絶対条件です。その性質・制約をしっかりと把握し、欠点を補い良さを生かすのが敷地を間取るということです。



建物を西側に寄せたことで得られた明るい居間



この事例の住まいの敷地は、三角形、道路との高低差60cm、南側に隣家が迫るといって、決して好条件とは言えない土地でした。長年暮らしてきた住まいは日当たりも風通しも芳しくなく、住み手は「土地が悪いから仕方がない」と諦めの境地でしたが、建て替え後は見違えるように改善しました。道路と接する長さを生かし駐車スペースを日当たりの悪い場所に置き換え、敷地の高低差を取り込んでスキップフロアを採用、平屋部分を敷地の形に馴染むホームベース型にするなど、配置計画に工夫を凝らしました。

計画段階では、出入口の位置など、前の住まいとの違いを不安視していた建主さんでしたが、「同じ敷地に建て替えたとは思えないほど、快適で使いやすくなりました」との感想をいただきました。

居間は南向きに、玄関は道にまっすぐに向ける、部屋は四角くなどの先入観を一旦取り払い、土地の特性に柔軟に向き合うことで得た、敷地と建物の「間取り」でした。



日照を望める西側を活かした外観